

(2) 「主体性」・「生きる力」を育む教育の推進

- ① 自ら主体的に課題を設定し、その解決を図る資質や能力の育成に努める。
- ② 協調性と思いやりに富む心の育成を図る。
- ③ 健康で強靱な身体と精神力の育成に努める。
- ④ 総合的な学習の時間の工夫。
- ⑤ 特別活動においては、できるだけ生徒の活躍場面を設定し、主体性の育成に努める。

(3) 全教職員の一致協力（チームワーク）

- ① 学年・学級経営の充実を図る。
- ② 各分掌の連携と、一貫した指導体制を確立する。
- ③ 不登校傾向の生徒や、問題傾向生徒に対する全教職員の理解と一致協力の体制をつくる。特別支援教育委員会が有効に機能するよう工夫する。
- ④ 服務の厳正に努め、生徒の模範となる。特に、言葉遣い・服装。

(4) 隣接小学校、地域社会、及び家庭との連携を密にし、指導の効果を高める

- ① 開かれた学校づくりに努める。（施設設備の開放と人材の交流）
- ② 努めて出向く姿勢（足で稼ぐ）を貫く。（関係諸機関や地域団体との連携を深め、保護者や地域の期待に応える教育の推進）
- ③ 小中連携教育の推進

(5) 教育環境を整備し、豊かな心を育てるとともに安全教育の徹底を図る

- ① 明窓浄机を心掛け、安全な施設・設備ときれいな学校をつくる。
- ② 公共物を大切にす公徳心の育成を図る。
- ③ 丁寧な言葉づかい、挨拶の習慣化、掲示物など、言語環境の整備に努める。
- ④ 交通安全に努め、登下校中の事故や校舎内での怪我等に対しても未然に防げるよう、最大の注意を払う。
- ⑤ 読書活動を推進し、思考力・集中力・表現力等の育成を図る。

5. 今年度の重点

(1) 小中連携教育の推進

- ① 坂上三校の連携教育を推進する
各教科、分掌、学年などの単位で、連携教育を模索し実践する
・その実践の中で、連携のための連携とならぬよう配慮し、課題の明確化と共に連携で目指すものを明らかにする
・校内研究活動(表現力、基礎学力、食育)は、できるだけ小中連携の実践を盛り込みながら推進してください

(2) 主体性の育成

- ① 押さえつける指導ではなく、引き出す指導を心がける
- ② できる限り生徒の活躍場面を設定し、成功体験を味わわせるとともに、自己実現がはかれるよう配慮する
(例 授業、行事・部活・生徒会活動・学級活動、進路学習・総合学習、道徳等)

(3) 学力向上のための工夫改善

- ① 少人数を生かした、個に応じた指導の工夫
- ② 家庭学習習慣化のための工夫(宿題の分量、内容の難しさ、宿題を出すタイミング)
- ③ 都平均を上回る学力の定着を目指す(モチベーションの確立)
- ④ 各種検定試験(英検・英単語検・漢検・数検等)の受験奨励 と表彰場面の設定

6. いつも思っていること

★公立学校のあるべき姿(昔も今も未来も)

・ ・ 「地域の思い、願い、教育力等を恒常的に取り込んでいく学校」であるべき

★研究は技術開発なり

★教員が伸びた分だけ子どもも伸びる

★不言桃李 下自成蹊

★「やってみなはれ。やる前からあきらめるのは一番つまらん人間だ」

★「ともかく具体的に動いてごらん。そうすれば具体的な課題が見えてくるから」

